

地震被害早期評価システム（地震DIS）

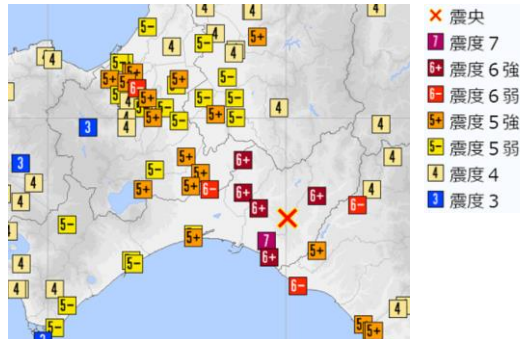


- 大規模災害発生時には初動対応を適切、円滑に行うため、被災地の状況を迅速に把握することが重要。
- 地震被害早期評価システム（地震DIS）は気象庁等の観測点における震度情報をもとに、震度4以上が観測された場合に自動的に起動し、発生から概ね10分で震度分布、建築物の全壊棟数及び建築物の全壊に伴う死傷者数を推計。推計結果は、政府の初動体制検討において参考情報として活用される。

推計フロー

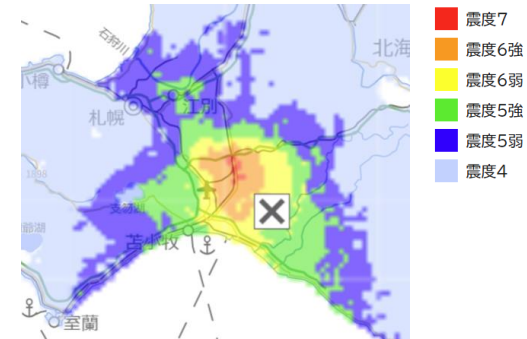
①気象庁（震度情報）

気象庁が配信する震度情報を地震DISにて受信



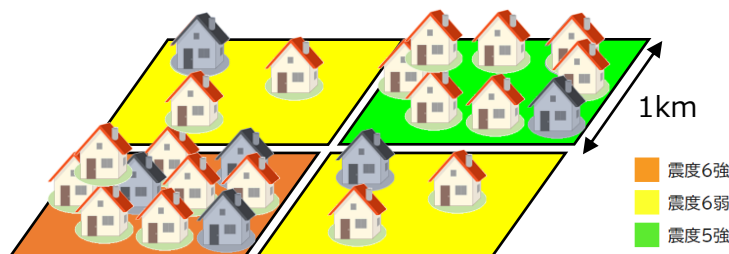
②DIS（面的震度分布）

点在する震度情報を基に、面的な震度分布を作成



④DIS（人的被害）

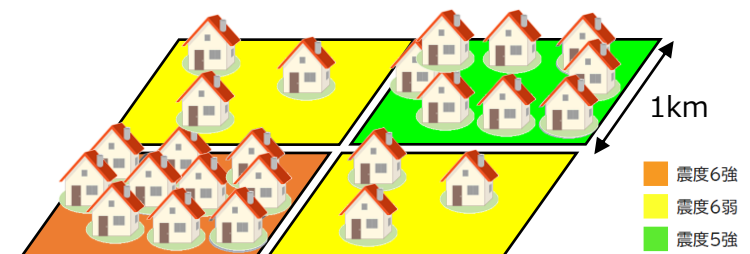
1kmメッシュごとに建物被害から人的被害を推計



死者数 = 人口 × 死者率(※) → 市区町村ごとに集計
(※)死者率は全壊率等から算出

③DIS（建物被害）

1kmメッシュごとに震度分布から建物被害を推計



全壊棟数 = 建物数 × 全壊率 → 市区町村ごとに集計